

NK、復原性資料など作成アプリケーションをNAPAに供与

設計資料作成ソフトの機能統合


NK、NAPAで全ユーザー利用可能に

日本海事協会(NK)は7日、船舶の設計時に復原性資料などを作成するためのソフト「PrimeShip NAPA Manager」の知的所有権を、NAPA社に供与したと発表した。NAPAの設計支援ソフト「Statutory Compliance Manager」に統合され、従来NKの顧客のみに利用が限定されていた機能が全てのNAPAユーザーに提供される。

「PrimeShip NAPA Manager」はNKが国内造船所の協力のもとで開発、展開してきたソフト。バルカー、タンカー、コンテナ船などの船種に応じ適用すべき規則を自動的に選択し、復原性計算や縦強度計算などを実施。損傷時・非損傷時復原性資料や、ローディングマニュアルの作成に用いられる。入力作業の省力化を徹底するとともに、トレーニングなしでも利用可能な簡便な操作性が特徴。これらの機能が「NAPA Statutory Compliance Manager」に統合されることで、より多くの造船設計者が作業を効率化でき、また船級承認プロセスの迅速化を図ることができる。

NAPAは1989年創業のフィンランドの船舶設計・運航支援ソフトウェア会社。昨年3月にNKが買収し、両者の緊密な協力のもとでソフトウェア開発が進められている。

 [記事一覧に戻る](#)

 [この記事印刷する](#)